

高等学校 学校行事（2）



オンラインで国際交流体験活動を行うことで、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を考える。

高等学校 学校行事（2）

「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を考えよう」

■本活動のねらい

我が国や他国の歴史や伝統・文化について理解し、共に交流、尊重し合って、国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方生き方を考え、国際社会の平和と発展に貢献しようとする態度を養い、教科・科目等を学ぶ意義を認識し、新たな学習意欲につなぐことができる。

■本活動の概要

題材を「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を考えよう」と設定し、端末とを活用して、複数の外国（アメリカ、マレーシア等）の高校生との交流体験学習により国際理解や国際交流の在り方についての考えを深めて、新たな学習意欲につなげる。

■本活動の指導計画（3時間）

事前の活動（ホームルーム活動）

- ・ 諸外国の高校生と互いに尊重し合う意識を醸成する
- ・ 積極的かつ豊かに交流する方法を確認する

本時の活動（学校行事）

「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を考えよう」

- ・ 端末を活用して外国の高校生と情報交換や意見交換をする
- ・ 国際理解や国際交流について体験後の考えをまとめる

事後の活動（ホームルーム活動、各教科・科目）

- ・ 国際理解や国際交流の在り方についての考えを深める
- ・ 学習の意義やつながりを実感する
- ・ 国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方生き方を意思決定する

■指導計画の概要

ホームルーム単位で話し合い、諸外国の高校生と隔てない心で接し、互いに尊重する意識を醸成する。端末を活用して限られた条件の中で有効な交流とするためのポイントを整理する。

ホームルームの枠を外し各自交流する。前半では用意した資料や原稿を基に互いの学校や地域・文化についての紹介、後半は休憩も含みながら自由な交流の機会とする。まとめでは、資質・能力ベースで本時の交流を振り返る。

国際交流での振り返りを基に国際理解や国際交流の在り方についての考えを深めるとともに、教科・科目等を学ぶ意義を認識し、新たな学習意欲につなぐ。

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（本時の活動）

【学習活動の場面】

端末を活用して、生徒各自が外国の高校生と交流体験活動を実施した。

本時前半では、あらかじめ生徒が用意した資料や原稿を基に、互いの学校や国・地域、文化や風習などについて紹介し合い、それを基に質疑応答・意見交換し合った。準備の甲斐あって緊張感の中でも生徒にとっては充実した時間となった。

本時後半では、自由な交流の機会としたが、資料や原稿を準備していた前半とは状況が変わり、生徒はもどかしさや自分自身に対するいら立ちを覚えることになる。

まとめでは、次回の交流に向け備えるべきことを意思決定した。

【子供の「深い学び」の姿】

本時前半ではあらかじめ生徒が用意した資料や原稿を基に、互いの学校や国・地域、文化や風習などについて紹介し合い、それを基に質疑応答・意見交換し合った。緊張感の中にも、互いを尊重して豊かな交流となった。

しかし、休憩時間を含み、自由な交流となった**本時後半では生徒の口々から「好きな食べ物も伝わらない」「趣味や流行の話が理解できない」「簡単に伝わると思っていたことに限って伝わらない」**などもどかしさや戸惑い、自分自身の知識や技能の不足に対する**いら立ちの声までが聞こえてきた。**

まとめに当たっては、交流を録画した動画を確認、振り返りながら「もっと英語を学びたいと本気で思った」「語学だけではなくて歴史や文化を理解していないときちんと交流できないことが分かった」「勉強する意味が分かった」等、他教科等での学習を振り返り、今後の学習意欲につなげようとする姿が見られた。

【当該指導での「深い学び」】

生徒の発言通り、あらかじめ用意した資料や原稿を基に交流した本時前半と自由な交流となった本時後半では学びの質が変化している。また、端末を活用しての交流であるためチーム内に日本の高校生が一人というケース、外国の高校生と一対一というケースもあり相手とコミュニケーションがうまく取れないことに自身の力（資質・能力）不足を実感していた。国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方生き方を考えることで、他教科等での学習の意義や自らの学習状況を振り返り、相手の立場で考えることの大切さを確認するなど、今後の学習に向けて意欲を高めた。

■ 指導上の工夫と ICTの利活用

① 端末を活用して国際交流体験活動を実施する。

* 実際に対面せずとも世界の高校生と交流する。

② 端末を活用することで集団対集団から個人対個人の交流が可能となる。

* かつては、一台のカメラと大きなモニターを前にした集団対集団の交流であったため、カメラの手前では日本語で話げできた。一方、端末が一人一台となり日本の高校生が一人、外国の高校生と一対一ということも可能となりリアルなコミュニケーションを体験できるようになった。



【活用したソフトや機能】
Microsoft teams等

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第5章 特別活動

第2【ホームルーム活動】2

(2) ウ 国際理解と国際交流の推進

我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探求しようとすること。

第2【学校行事】の2

(2) 文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。

出典：高等学校学習指導要領P479、480

学習指導要領解説（特別活動編）第3章 第3節2（2）②

ア 日頃の学習活動の成果の発表を通して、各教科・科目等で習得した知識や技能を更に深めさせるとともに、発表する能力を育てたり、他者の発表等を見たり聞いたりする際の望ましい態度を養うこと。また、自己の成長を振り返り、自己を一層伸長させようとする意欲を高める自己評価の在り方を工夫すること。

出典：高等学校学習指導要領解説（特別活動編）P91